

# 重要センテンス

- 第1に教師が置かれている「環境・文化」説(田中, 2011, 川口, 2010), 第2に教師が習得している「専門的能力」説(渡辺, 2009, 大杉, 2011), 第3に教師が志向する教科指導の「思想・信念(教科観・教育観)」説(川口, 2010), である。(P83)
- 「べき論」に留まらない。しかし現実論の名の下に不作為や不公正を正当化することもしない社会科授業をつくっていきたいと考えている。(P87)
- (坂は)生徒が教科書に書かれていること疑いようのない真実だと考えがちな点を危惧し、教科書だけでは生徒の視点を広げることにはできないと考えている。(P89)
- (白市は)「労働」や「冤罪」のように公民的分野の指導でも当然取り扱う題材には、むしろ手が出せなかったと述べ・・・(中略)・・・「いじめ」は、教師が比較的把握しやすいため、取り上げることにしたという。(P91)
- (第2に、そのような展開には、)「身近な問題」で興味・関心を喚起し、子ども主体の学習を目指すという矢野の教育観の影響が認められる。(P94)
- 教師の実践をよりよくする上では、「教科観・教育観」の確立・成長を支援することが欠かせない。(P95)
- しかし、観の形成は個人の思想・信条にも関わるために、統制的・強制的に行うことはできない。(P95)